サークル紹介

熱血体育会宣言

――これからの体育会を考える――

総合科学部学生　中田勝彦

広大生はどこに？

他大学と比べるまでもなく広島大学は地味な大学です。ひとつの行事で学内が盛り上がることもなく，大学祭がつまらないからと企画に関係ない学生は，バイトや旅行に行ってしまうという話をよく聞きます。普段も同様で，各キャンパスに分かれているにしろ１万人以上も学生が在籍しているのに森戸道路は新歓の時期を除いてガラガラ，学生の姿を感じることができるのは所狭しと並べられた自転車の数のみです。そして昼休みになると食事のために広大生がわいて出てくるのですが，終わるとまたどこかに消えてしまう。これだけ学生がいるのだから森戸で誰かがイベントなどしてもよさそうなのに，潮が引くように学生が建物に吸い込まれていく光景は不気味ですらあります。

まるで傍観者のように書いてしまいましたが，これについては皆さんも感じていらっしゃるでしょうし，広大は建学当初から別キャンパスの「タコ足大学」ゆえに，盛り上がりに欠ける大学であったと聞いています。

広島大学体育会設立の趣旨

先に述べたことは，広島大学体育会の設立の趣旨と関係が深く，皆さんに体育会を知っていただくためにとても重要なことです。

つまり広島大学体育会は今から27年前に，こうした状況を全学組織設立によって克服し，なんとか活気溢れる広大を作ろうとしてできたものです。それは，体育会の理念にも「覇気ある学風の樹立と高揚」としてうたわれており，その意味で体育会は単なる運動部の集合体として設立されたのではないといえます。

理想と現実の間で

この「覇気ある学風の樹立」に向けて，これまで体育会は様々なことを行ってきました。オリキャン，フェニックス駅伝などのように学内に定着した行事もありますが，しかし入会率低下にみられるように，一般学生の「体育会ばなれ」も現実問題として大きなものになっています。設立当初は，100％近い入会率を誇っていたにもかかわらず，現在では40％台に落ち込んでいるのです。

この原因を考えると，やはり全学組織とはいいながら実際は運動部中心に活動してきたため，一般会員の支持を失ったのだと思います。つまり，組織が閉鎖的であるがゆえに会員がお客様の域を出ず「真の意味での全学組織」になれなかったのです。さらに，時代の変化に対応できず，会員が本当に望むものを供給できなかった点も大きな原因のひとつです。

これからの体育会

上記の反省を活かし，今後体育会が再び会員の支持を得るためには，抜本的な体質改善が必要です。つまり，「体育会に何が望まれていて，何ができるのか」という自問自答から始めて，会員の意志に基づく運営やスポーツに限定されない幅広い活動を行うことで，広大での体育会の位置を明確にしたいのです。

もちろん，このような体育会の改革は体育会役員の力だけで実現できるものではありません。皆さんには「体育会」という先入観にとらわれずに，どんどん体育会活動に参加するなり，意見を言っていただきたいし，もし「広大を活気溢れる大学にしよう」という心意気に少しでも感じるところがありましたら，ぜひ体育会役員として一緒にがんばりましょう。あなたの参加をお待ちしています。